

地域メッシュ統計による標準化女性子ども比の分析

Analysis of standardized child-woman ratios by grid square statistics

小西 純 (公益財団法人 統計情報研究開発センター)

Jun Konishi (Statistical Information Institute for Consulting and Analysis)

junkonishi@sinfonica.or.jp

1. 地域の少子化と出生力の指標

日本では少子化が進行しており、その状況は地域によって異なる。各地域において少子化の状況を改善に資する施策を検討するためには、詳細な地域の出生力の状況について把握することが有用であると考えられる。出生力を表す指標の一つに女性子ども比 (以下 CWR という) がある。CWR は、15~49 歳女性人口に対する 0~4 歳人口の比の形で表され、静態統計である国勢調査の結果を利用して把握することができる。

本報告では、2005 年、2015 年国勢調査の地域メッシュ統計を利用して、標準地域メッシュ別の CWR を計算し、市区町村内の出生力の分布を可視化する。本報告の目的は、市区町村内で出生力が偏在する要因となる事象を明らかにするための相関分析を行い、小地域で出生力や出生力の上昇が高い地域について分析することである。なお CWR は、人口集団の年齢構造の影響を受けるため、年次間・地域間の比較に適さない。分析に当たっては、2015 年の全国の年齢別人口を標準人口とした標準化女性子ども比 (以下 sCWR という) を計算した。

2. 全国における標準地域メッシュ別 sCWR

最初に全国の標準地域メッシュ別 sCWR について基礎的な分析を行った。2015 年国勢調査に関する地域メッシュ統計における基準地域メッシュ数 (人口が居住するメッシュ) は、17 万 8397 メッシュとなっており、2005 年の 18 万 1620 メッシュから 10 年間で 3223 メッシュ減少している。CWR は 15~49 歳女性人口に対する 0~4 歳人口の比で、分母が小さいと CWR の変動が大きいことから、本分析では 15~49 歳女性が 100 人以下の地域メッシュは除外した。分析対象となる標準地域メッシュ数は、2015 年が 3 万 4131 メッシュ、2005 年が 3 万 8246 メッシュであり、15~49 歳女性人口が 100 人より多い標準地域メッシュの減少数は 4115、減少率は 10.8%となっている。

分析対象メッシュについて sCWR の基本統計量を算出した。2015 年の平均は 0.2057、2005 年の平均は 0.1892 で、これらの平均について差の検定を行ったところ 0.1%水準で有意となり、標準地域メッシュ別にみた sCWR の水準は上昇している。

3. 横浜市における相関分析

横浜市にかかる標準地域メッシュ (442 メッシュ) を GIS で抽出し、2015 年の sCWR と他の指標と相関係数を計算したところ、sCWR と相関関係があるのは、単身世帯割合 (相関係数は -0.54。以下同じ)、民営の借家世帯割合 (-0.29)、女性就業者割合 (-0.38)、労働者派遣事務所の派遣社員 (-0.42) であった。これらは単身世帯割合との相関関係にある項目と考えられる。小地域統計データを利用して、地理的分布を可視化すると、単身世帯割合や親族世帯割合の分布は一様ではなく、偏在していることが多い。このため、これらの項目と出生力の指標である sCWR とは負の相関関係を示していると考えられる。

横浜市において sCWR の値が高い地域や変化が大きい地域については、出生力を高める何らかの要素があると考えられる。これらの地域について、より詳細な 4 分の 1 地域メッシュや 8 分の 1 地域メッシュを利用して分析を行い、出生力の上昇に資する要素について分析を行う。

○参考文献

山内昌和・西岡八郎・小池司朗「近年の地域出生力ー都市圏を単位とした 1980~2000 年の変化と格差の検討ー」、人口問題研究 61-1、pp1~17